

おいしいと消費地から期待されるトマト! 高収益で収入の中心として取り組みます



主人公の野原拓人さんは、実家の農地を守ろうと就農を決め、Uターンすることになりました。ワンストップ新規就農相談窓口では、希望する品目が決まっていれば、JAと普及センターの品目担当者が同席し、説明を受けられます。今回は、トマトの品目説明です。

まずトマトの4つの作型から

希望する品目が決まっていればワンストップ新規就農相談窓口へ普及センターとJAの各品目の担当職員を呼んでもらえます

JA職員 普及センター職員

相談窓口の担当者と共に品目について詳しく聞いてみましょう

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
①ハウス長期栽培		○4月上旬・中旬		★6月上旬～				
②半促成栽培		○3月上旬・中旬	★5月中旬～					
③簡易露地栽培			○5月中旬		★7月上旬～			
④秋どり栽培				○6月下旬・7月上旬		★8月中旬・下旬		

高値販売時期

出荷ピーク

高値販売時期に出荷ピークが合う

例えば...

ハウス長期栽培 + 秋どり栽培

栽培はハウスを利用し多くの生産者が4月下旬に定植6月上旬から10月下旬ごろまで収穫する①ハウス長期栽培に取り組んでいます

②半促成栽培はそれよりも約1カ月早く栽培を開始する作型で主に花泉地域に生産者が多いですね

④秋どり栽培は全国的に出荷量が少なく単価の高い9～10月に出荷ピークを合わせるため現在部会で推奨中です!

あと初期投資が少ない③簡易露地栽培で栽培を開始しハウスでの規模拡大が可能です

さらに作型の組み合わせで作業の分散を図り無理なく栽培面積を拡大することもできるので相談してくださいね

和令7年は高卒の研修生2人が就農に向けて研修中新たな若手が参入予定よ

その若手の取り組みで課題の高値販売時期の出荷量確保のため秋どり栽培や遮熱資材ハウス内の外気導入など夏場の高温対策が進みました現在の④秋どり栽培推奨にはその成果が反映されています

担い手班は若手が中心の組織で新技術や資材導入に積極的年に数回の定例会の他優良圃場や新技術導入圃場を視察交流会も開催したりと親睦を深めています

定期的な指導会や座談会を開催し生産者同士の情報交換・栽培管理作業などを確認出荷開始時には目ざろえ会で出荷規格や注意点を指導し栽培終了後は研修旅行も行っています

ちなみに収穫後は園芸センターで共同選果を行うので出荷作業の労力が軽減できます

トマトの強みなのよね